

様式第 1 号

R8 年 6 月 5 日

群馬県知事 山本 一太殿

群馬県公立大学法人 理事長 柏倉 健一

大学等における修学の支援に関する法律第 3 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	群馬県立女子大学
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学) 短期大学・高等専門学校・専門学校)
大学等の所在地	群馬県佐波郡玉村町上之手 1395-1
学長又は校長の氏名	学長 塩澤 寛樹
設置者の名称	群馬県公立大学法人
設置者の主たる事務所の所在地	群馬県佐波郡玉村町上之手 1395-1
設置者の代表者の氏名	理事長 柏倉 健一
申請書を公表する予定のホームページアドレス	群馬県立女子大学

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。

☐ 確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 1 項に基づき確認申請書を提出します。

☒ 更新確認申請書の提出

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 3 項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

☒ この申請書（添付書類を含む。）の記載内容は、事実と相違ありません。

☒ 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律（以下「大学等修学支援法」という。）に基づき、基準を満たす学生を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。

☒ 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

☒ この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免

する義務があることを承知しています。

- ☒ 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第3条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	学生係・友松	0270-65-8511	kenjo@mail.gpwu.ac.jp
第2号の1	教務係・清水	0270-65-8511	kenjo@mail.gpwu.ac.jp
第2号の2	法人事務局・福田	0270-65-8511	kenjo@mail.gpwu.ac.jp
第2号の3	教務係・清水	0270-65-8511	kenjo@mail.gpwu.ac.jp
第2号の4	総務企画係・木下	0270-65-8511	kenjo@mail.gpwu.ac.jp

○添付書類

- ※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点（☒）を付けた上で、これらの書類を添付してください。（設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。）

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- ☒ 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- ☒ 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- ☐ 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- ☒ 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

その他

- ☐ 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- ☒ 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校コード	F110210101748	学校名	群馬県立女子大学
設置者名	群馬県公立大学法人		

I. ①直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	2,857,590,452円	2,837,056,563円	20,533,889円
申請2年度前の決算	2,687,118,018円	2,607,974,582円	79,143,436円
申請3年度前の決算	2,608,588,727円	2,583,516,770円	25,071,957円

I. ②直前の決算の貸借対照表における「運用資産－外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	円	円	円

II. 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率(F)/(E)
今年度(申請年度)	840人	980人	116%
前年度	830人	957人	115%
前々年度	820人	940人	114%

大学・短期大学・高等専門学校で、II. 申請校の直近3年度の全ての収容定員充足率が8割未満の場合
申請前年度に当該学校を卒業した者について、今年度(申請年度)5月1日時点の状況について

(A)又は(B)のいずれかを記載

・申請校の直近の進学・就職率の状況(A)学校基本統計を利用する場合

	卒業者数(G)	進学者数+就職者数(H)	進学・就職率(H)/(G)
申請前年度の状況	人	人	%

・申請校の直近の進学・就職率の状況(B)学校基本統計を利用しない場合

	進学希望者+就職希望者(I)	進学者数+就職者数(J)	進学・就職率(J)/(I)
申請前年度の状況	人	人	%

(I. ②の補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	資産の内容	申請前年度の決算における金額
		円
		円
		円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	負債の内容	申請前年度の決算における金額
		円
		円
		円

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	群馬県立女子大学
設置者名	群馬県公立大学法人

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
文学部	国文学科		102	2	13	117	13	
	英米文化学科				13	117	13	
	美学美術史学科				45	149	13	
	文化情報学科				8	112	13	
国際コミュニケーション学部				0	20	122	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ウェブサイトに掲載 < https://www.gpwu.ac.jp/guide/kyoikujoho/newplan/ >
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	群馬県立女子大学
設置者名	群馬県公立大学法人

1. 理事（役員）名簿の公表方法

弊法人ホームページ（<https://www.gpwu.ac.jp/gppuc/exec/>）に掲載

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	群馬県職員	R8.4.1 ～ R10.3.31	財務担当、設置自治 体との調整
非常勤	商工団体名誉会頭	R8.4.1 ～ R10.3.31	地域連携等
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	群馬県立女子大学
設置者名	群馬県公立大学法人

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
【授業計画書(シラバス)の作成過程(2026年度版)】 ・「令和8年度版「履修要項」等の原稿作成スケジュールについて」を7月教授会で報告した。 ・「令和8年度授業計画(シラバス)の登録について」を学部長名、研究科長名で対象教員に提示し作成を依頼した。 【授業計画書の作成・公表時期(2026年度版)】 ・12月中旬:教員あて登録(作成)依頼 ・1月:登録期限 ・3月末:大学ウェブサイトにて公表	
授業計画書の公表方法	大学ウェブサイトに掲載 https://www.gpwu.ac.jp/life/class/syl/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
履修要項>学修の評価>学業成績の評価・単位修得の認定 https://www.gpwu.ac.jp/guide/summary/certification/ により適正な成績評価を行っている。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)	
履修要項>学修の評価>GPA制度 https://www.gpwu.ac.jp/life/class/value/ により適切に実施している。	

客観的な指標の 算出方法の公表方法	「履修要項」及び大学ウェブサイトに掲載 (https://www.gpwu.ac.jp/life/class/value/ により公表)
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
群馬県立女子大学 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） https://www.gpwu.ac.jp/guide/summary/idea/diploma/	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	大学ウェブサイトに掲載（上記アドレス）

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	群馬県立女子大学
設置者名	群馬県公立大学法人

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	法人ウェブサイトに掲載 (https://www.gpwu.ac.jp/gppuc/finance/) ※財産目録は作成対象外
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 対象年度:)
公表方法:
中長期計画(名称: 群馬県公立大学法人第二期中期計画 対象年度: 令和6~令和11年度)
公表方法: 法人ウェブサイト (https://www.gpwu.ac.jp/gppuc/exec/) 掲載

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学ウェブサイトに掲載 (https://www.gpwu.ac.jp/guide/summary/cat/)

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大学ウェブサイトに掲載 (https://www.gpwu.ac.jp/guide/summary/cat/certification/)
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 全学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ウェブサイトに掲載） （概要） 大学の目的・沿革 https://www.gpwu.ac.jp/guide/summary/idea/idea/
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ウェブサイトに掲載） （概要） 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） https://www.gpwu.ac.jp/guide/summary/idea/diploma/
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ウェブサイトに掲載） （概要） 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） https://www.gpwu.ac.jp/guide/summary/idea/curriculum/
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ウェブサイトに掲載） （概要） 入学者受入れの方針（アドミッションポリシー） https://www.gpwu.ac.jp/exam/dep/adm-pol/adm-pol/

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ウェブサイトに掲載 (https://www.gpwu.ac.jp/guide/summary/summary/)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
文学部	－	19 人	14 人	5 人	人	人	38 人
国際コミュニケーション学部	－	8 人	5 人	2 人	人	人	15 人
附属機関	－	1 人	1 人	1 人	人	人	3 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
人			127 人				127 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学ウェブサイトに掲載 (https://www.gpwu.ac.jp/guide/info/)					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
○F D・S D専門委員会：2 回開催（検討内容） F D・S Dプログラムの立案、実施等（教員間授業参観、講演会等）							
○教員間授業参観 計 55 授業を、全体で延べ 75 人（実 41 人）が参観							
○F D・S D研修会 9/3 大学における研究イングリティ確保に係る取組について							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	150 人	177 人	118%	600 人	704 人	117%	若干名	1 人
国際コミュニケーション学部	60 人	68 人	113%	240 人	276 人	115%	若干名	1 人
合計	210 人	245 人	117%	840 人	980 人	117%	若干名	2 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	155 人 (100%)	9 人 (5.8%)	136 人 (87.7%)	10 人 (6.5%)
国際コミュニケーション学部	59 人 (100%)	1 人 (1.7%)	54 人 (91.5%)	4 人 (6.8%)
合計	214 人 (100%)	10 人 (4.7%)	190 人 (88.8%)	11 人 (5.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
【授業計画書（シラバス）の作成過程（2026 年度版）】
・「『履修要項』等の原稿作成について」等を 7 月教授会で報告した。
・「令和 8 年度授業計画（シラバス）の登録について」を学部長名、研究課長名で対象教員に提示し作成を依頼した。
【授業計画書の作成・公表時期（2026 年度版）】
・ 1 2 月中旬：教員あて WEB 登録（作成）依頼
・ 1 月：登録期限
・ 3 月末：大学ウェブサイトにて公表

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
・履修要項＞学修の評価＞学業成績の評価・単位修得の認定				
https://www.gpwu.ac.jp/guide/summary/certification/				
・「履修要項」及び大学ウェブサイト				
https://www.gpwu.ac.jp/life/class/value/				
により GPA の算出方法を公表し、成績通知等に記載している。				
・学部・学科ごとに「ディプロマ・ポリシー」を策定・運用し、卒業要件である修得単位数、在籍期間を確認の上、卒業を認定している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	国文	124 単位	有	各学期 24 単位
	英米文化	124 単位	有	各学期 24 単位
	美学美術史	124 単位	有	各学期 24 単位
	文化情報	124 単位	有	各学期 24 単位
国際コミュニケー ション学部		124 単位	有	各学期 24 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		

学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：
----------------------------	-------

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

大学ウェブサイトに掲載

< <https://www.gpwu.ac.jp/guide/campus/> >

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考
文学部	国文学科	535,800 円	282,000 円 (県内者は 141,000 円)		
	英米文化学科				
	美学美術史学科				
	文化情報学科				
国際コミュニケーション 学部					

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 少人数制の大学ならではの特徴を活かし、学生委員会、事務局学生係及び各学科・課程・専攻の教員が相互に連携し、学生一人ひとりの状況に応じたケアを行っている。各学科・課程には、学生支援の教員を置き、修学面での支援を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア支援センターが中心となって、「キャリア支援プログラム」としてガイダンス、個人面談、学内講座等の一人ひとりの個性や意向を重視した各種の取り組みを行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 健康相談・助言の体制として、保健室と相談室を設置している。保健室では、保健師が常駐し、健康相談をはじめ各種の相談に応じるほか、校医（精神神経科）による相談も実施している。相談室では、定期的に相談員（臨床心理士）への相談が可能となっている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ウェブサイトに掲載 (<https://www.gpwu.ac.jp/guide/kyoikujoho/>)

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

1 実務経験のある教員による授業科目

科目名等	単位数	全学共通科目	担当教員		実務経験・授業での活用
			職位	氏名	
文学部					
美学美術史学科					
日本美術に親しむ2	2	○	講師	浦木 賢治	●埼玉県職員、私立美術館等 (学芸員業務) 博物館・美術館での学芸員の実務経験を通して得た知識等を活用し、授業を展開している。
日本美術史概説2	2	○			
日本美術史特講1	2	○			
日本美術史特講2	2	○			
日本美術史演習1	1	○			
日本美術史演習2	1	○			
卒業論文・卒業制作指導1、2	8				
日本美術史実地研修1 (博物館実習Ⅰ)	1	○	准教授	三宅 秀和	●公益財団法人永青文庫 (美術館学芸員業務) 美術館学芸員の実務経験を通して得た知識等を活用し、授業を展開している。
日本美術史概説1	2	○			
日本美術史特講3	2	○			
日本美術史特講4	2	○			
日本美術史演習3	1	○			
日本美術史演習4	1	○			
卒業論文・卒業制作指導1、2	8				
日本美術史実地研修2 (博物館実習Ⅰ)	1	○	准教授 講師	三宅 秀和 浦木 賢治	(上記参照)
芸術学基礎講読c	2	○			
デザイン1／デザイン概論・図法	2	○	教授	高橋 綾	●民間企業でのデザイン等業務 製造メーカー等でのデザインに関する実務経験を通して得た知識や技能等を活用し、授業を展開している。
デザイン2／デザイン1(視覚)	2	○			
デザイン3／デザイン2(立体)	2	○			
デザイン4／デザイン3(企画)	2	○			
デザイン5／デザイン4(実践)	2	○			
卒業論文・卒業制作指導1、2	8				
絵画1／絵画1(素描)	1	○	教授	山崎 真一	●展覧会等による作品発表、公共施設等への作品を納入、施工に関わる実務経験を通して得た知識や技能等を活用し、授業を展開している。
絵画2／絵画2(素描)	1	○			
絵画3／絵画3(彩画)	1	○			
絵画4／絵画4(彩画)	1	○			
絵画5(版画)	2	○			
卒業論文・卒業制作指導1、2	8				
文化情報学科					
文化におけるメディア	2	○	教授	山崎 隆広	●民間企業でのメディア関連業務 メディア企業(出版・映像・音楽等)での実務経験を通して得た知識等を活用し、授業を展開している。
メディア情報リテラシー	2	○			
メディア1	2	○			
メディア2	2	○			
社会・文化系演習1／環境・社会系演習3	1	○			
社会・文化系演習2／環境・社会系演習4	1	○			
卒業論文・卒業制作指導1、2	8				

教職課程						
心理学A	心理学A	2	○	教授	宮内 洋	●国家資格である公認心理師、臨床発達心理士等の心理系資格保持者として、学外での心理相談業務、学校等での児童及び生徒、保護者、そして教員の支援業務をおこなっており、その経験に基づきながら講義を展開している。
	発達・教育心理学	2				
	特別な教育的ニーズの理解とその支援	1				
	教育相談	2				
	観察学	2				
美術科教育法Ⅰ	美術科教育法Ⅰ	2		准教授	奥西 麻由子	●埼玉県公立高校およびさいたま市公立中学校6校における9年間の美術科非常勤講師の実務経験を生かして、教育方法の授業を実施している。
	美術科教育法Ⅲ	2				
学芸員課程						
	博物館概論	2		准教授	三宅 秀和	(上記参照)
国際コミュニケーション学部						
言語と教育	言語と教育	2	○	教授	神谷 信廣	●札幌市の中学校3校において、教員として13年間勤務した。現在担当している授業の中で、その中で得た知見を活用したり、その経験を学生に共有している。
	Nonverbal Communication	2	○			
	外国語教授法	2	○			
	言語教育学ゼミナールⅠ	2				
	言語教育学ゼミナールⅡ	2				
	言語教育学ゼミナールⅢ	2				
	言語教育学ゼミナールⅣ	2				
Second Language Acquisition	Second Language Acquisition	2	○	教授	N. スネイプ	●日本の高校と英会話学校で、4年間英語教員として勤務した。第二言語習得の理論的知識と実際の英語教授経験が、第二言語習得の知見がどのように社会で生かされているのかを教えるのに活用されている。
	Introduction to Psycholinguistics	2	○			
	Multicultural issues	2	○			
	第二言語習得論ゼミナールⅠ	2				
	第二言語習得論ゼミナールⅡ	2				
	第二言語習得論ゼミナールⅢ	2				
	第二言語習得論ゼミナールⅣ	2				
Intercultural Interactions	Intercultural Interactions	2	○	准教授	D. アンドリュース	●国内最大手自動車メーカーグループ企業にて社内翻訳・通訳業務に従事した後、個人事業主として特許翻訳事務所を設立。企業勤務時代を含め、約30年にわたり特許翻訳に携わる。豊富な実務経験を活かし、授業を展開している。
	Advanced Topics in EnglishⅠ	2	○			
	English for Travel and Tourism	2	○			
	Business English	2	○			
	TranslationⅠ	2	○			
	TranslationⅡ	2	○			
	InterpretationⅠ	2	○			
	InterpretationⅡ	2	○			
	異文化コミュニケーションゼミナールⅠ	2				
群馬学センター	群馬学入門1／群馬学入門1(原始古代・中世の群馬)／	2	○	教授	築瀬 大輔	●群馬県庁職員 (博物館学芸員業務、文化財保護業務) 博物館学芸員や文化財保護等の実務経験を通して得た知識等を活用し、授業を展開している。
	群馬学探究1／地域史入門1(地域の見方と調べ方)	2	○			
	文化的景観論／文化的景観論(文化的景観の保存と活用)	2	○			
	地域史特講／群馬の人と自然の関係史	2	○			
キャリアセンター	キャリア形成演習	2	○	講師	大川 友美	●公的機関における相談業務や複数の大学でのキャリアコンサルティング業務等 群馬県内の相談機関での就職支援実務や研修講師経験、多分野の学生へのキャリア支援を通して得た知識等を活用し、授業を展開している。

2 実務家を招へいして実施する授業科目

科目名	単位数	全学共通科目	担当教員		招へいする実務家
			職位	氏名	
芸術の現場から (リレー講座)	2	○	教授	藤沢 桜子	芸術分野で活躍する、また、群馬にゆかりのあるアート関係者を講師として招へいし、授業を実施する。
音楽産業と文化・社会	2	○	教授	山崎 隆広	コンサートプロモーター、アーティストマネジメント、レコード会社、メディア企業、ミュージシャン、ジャーナリストなどを招へいし、授業を実施する。
グローバル・シチズンシップ (大使リレー講座)	2	○	講師	鈴木 悠	外交の第一線で活躍している駐日大使や非政府組織(NGO)等で国際的に活動している日本人等を講師として招聘し、授業を実施する。
芸術の現場へ3(副題: イベントの企画と運営)	2	○	教授	武藤 大祐	アーティスト、パフォーマー、舞台技術者などを招へいし、授業を実施する。
アートマネジメント演習1	1	○	准教授	奥西 麻由子	富岡市立美術博物館の学芸員を連携事業として招へいし、授業を実施する。
アートマネジメント演習2	1	○	准教授	奥西 麻由子	高崎だるまの職人を招へいし、授業を実施する。(工房見学では学生が出向いている。)
生徒・進路指導論	2		教授	宮内 洋	群馬県内の赤城少年院の院長をはじめとして、法務教官の方々を講師として招聘し、授業を実施する。
多様な生き方・働き方: 将来のリーダー像を見つけよう (リレー講座)	2	○	講師	大川 友美	多岐にわたる業種において、実務の第一線で現在活躍中の女性を講師として招へいし、授業を実施する。
リーダーから学ぶ企業経営 (リレー講座)	2	○	講師	大川 友美	群馬県内の民間企業のトップリーダー等を講師として招へいし、授業を実施する。

小計 16
(全学共通科目) (14)

合計(1+2) 177
(全学共通科目) (102)

学 部 等	全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合 計
文学部 国文学科	102	2	13	117
英米文化学科			13	117
美学美術史学科			45	149
文化情報学科			8	112
国際コミュニケーション学部			20	122

群馬県公立大学法人 役員等名簿

【役員（理事会）】（定款14・16条）

職 名	氏 名	備 考
理事長	柏倉 健一	県立県民健康科学大学 学長
副理事長	塩澤 寛樹	県立女子大学 学長
理事	曾我 孝之	群馬県商工会議所連合会 名誉会頭
理事	松本 佳祝	法人事務局長
監事	足立 進	弁護士
監事	桂川 修一	公認会計士

【経営審議会】（定款18条2項）

区 分	氏 名	備 考
理事長	柏倉 健一	
副理事長	塩澤 寛樹	
理事	曾我 孝之	
	松本 佳祝	
有識者	内山 充	（株）上毛新聞社 取締役会長
	後閑 隆之	（一社）群馬県診療放射線技師会 監事
	赤尾 佳子	赤尾商事（株） 代表取締役
	岡藤 由美子	カルビー（株）常勤監査役
	神山 智子	（公社）群馬県看護師協会会長

【教育研究審議会】（定款23条第2項）

◎女子大学

職 名	氏 名
学長	塩澤 寛樹
文学部長	小林 徹
国際コミュニケーション学部長	神谷 信廣
文学研究科長	藤沢 桜子
国際コミュニケーション研究科長	（神谷 信廣）
附属図書館長	甲村 美帆
外国語教育研究所長	（塩澤 寛樹）
群馬学センター長	（塩澤 寛樹）
事務局長	松本 佳祝

◎県民健康科学大学

職 名	氏 名
学長	柏倉 健一
看護学部長兼看護学研究科長	大澤 真奈美
診療放射線学部長兼診療放射線学研究科長	上原 真澄
附属図書館長	下瀬川 正幸
地域連携・キャリア開発センター長	飯田 苗恵
看護学部	宮崎 有紀子
看護学部	廣瀬 規代美
診療放射線学部	大崎 洋充
診療放射線学部	林 則夫
看護学研究科	山下 暢子
診療放射線学研究科	原 孝光
事務局長	窪田 智佳子

【学長選考会議】（定款11条第6項）

◎女子大学

委員会	氏 名
経営審議会	曾我 孝之
	内山 充
	赤尾 佳子
教育研究審議会	小林 徹
	神谷 信廣
	甲村 美帆

◎県民健康科学大学

委員会	氏 名
経営審議会	曾我 孝之
	後閑 隆之
	神山 智子
教育研究審議会	大澤 真奈美
	上原 真澄
	窪田 智佳子

令和7年度 年間GPAの数値の分布状況

文学部 国文学科 1年 学生数 57人

G P A	0.5未満	0.5以上 1.00未満	1.00以上 1.50未満	1.50以上 2.00未満	2.00以上 2.50未満	2.50以上 3.00未満	3.00以上 3.50未満	3.50以上
人数			1	3	13	28	9	3

下位1/4に該当する人数 14人

下位1/4に該当するGPAの数値 2.43 以下

文学部 英米文化学科 1年 学生数 47人

G P A	0.5未満	0.5以上 1.00未満	1.00以上 1.50未満	1.50以上 2.00未満	2.00以上 2.50未満	2.50以上 3.00未満	3.00以上 3.50未満	3.50以上
人数	1	2	1	3	13	17	8	2

下位1/4に該当する人数 11人

下位1/4に該当するGPAの数値 2.17 以下

文学部 美学美術史学科 1年 学生数 32人

G P A	0.5未満	0.5以上 1.00未満	1.00以上 1.50未満	1.50以上 2.00未満	2.00以上 2.50未満	2.50以上 3.00未満	3.00以上 3.50未満	3.50以上
人数		1		1	6	15	9	

下位1/4に該当する人数 8人

下位1/4に該当するGPAの数値 2.48 以下

文学部 文化情報学科 1年 学生数 35人

G P A	0.5未満	0.5以上 1.00未満	1.00以上 1.50未満	1.50以上 2.00未満	2.00以上 2.50未満	2.50以上 3.00未満	3.00以上 3.50未満	3.50以上
人数		1	1	2	8	18	5	

下位1/4に該当する人数 8人

下位1/4に該当するGPAの数値 2.31 以下

国際コミュニケーション学部 1年 学生数 67人

G P A	0.5未満	0.5以上 1.00未満	1.00以上 1.50未満	1.50以上 2.00未満	2.00以上 2.50未満	2.50以上 3.00未満	3.00以上 3.50未満	3.50以上
人数			1	4	9	30	23	

下位1/4に該当する人数 16人

下位1/4に該当するGPAの数値 2.50 以下

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F110210101748
学校名 (〇〇大学 等)	群馬県立女子大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	群馬県公立大学法人

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		241人（165）人	244人（154）人	307人（167）人
内 訳	第Ⅰ区分	58人	55人	
	(うち多子世帯)	(16人)	(12人)	
	第Ⅱ区分	32人	35人	
	(うち多子世帯)	(8人)	(7人)	
	第Ⅲ区分	12人	23人	
	(うち多子世帯)	(2人)	(4人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	40人	39人	
	区分外（多子世帯）	99人	92人	
家計急変による 支援対象者（年間）				1人（0）人
合計（年間）				308人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	—	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	—	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
G P A等が下位4分の1	11人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	11人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

令和8年度

大 学 概 要

群馬県立女子大学

< 大 学 概 要 目 次 >

	頁
1 設置目的 -----	1
2 沿革 -----	1
3 大学組織構成 -----	2
4 学生・教職員数 -----	3
5 令和8年度入学者の状況 -----	4
6 令和7年度卒業生の進路状況 -----	5
7 日本学生支援機構奨学金の給付・貸与状況 -----	5
8 外国語教育研究所の状況 -----	6
9 地域貢献活動 -----	8
(1) 群馬学センター	
(2) 地域日本語教育センター	
(3) 県民公開授業等	
10 附属図書館の状況 -----	10
11 施設の状況 -----	10

1 設置目的

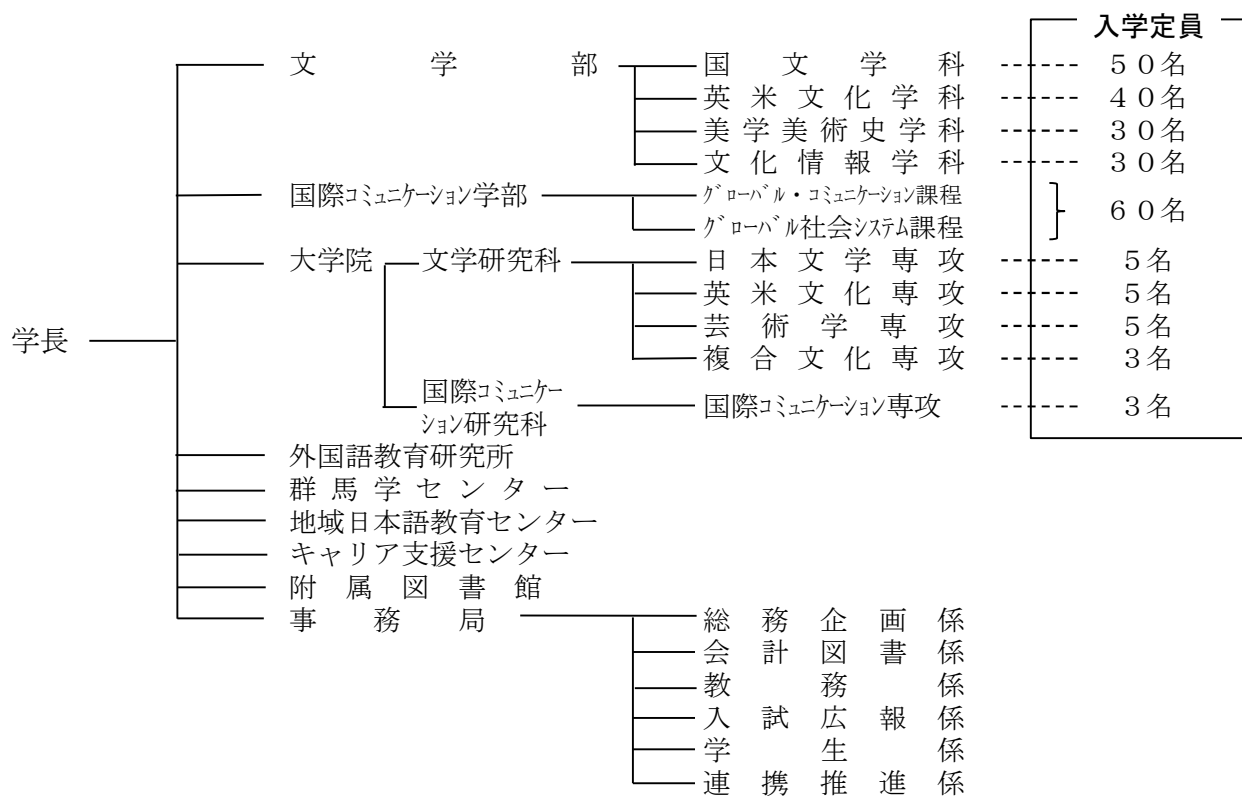
広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、地域社会における文化の進展に寄与し、更に国際化社会に対応し得る広い教養と豊かな情操を備えた人材を育成することを目的とする。

2 沿革

昭和	52年	1月	県立女子大学設置準備室を設置
	53年	3月	基本構想決定
	55年	1月	文部省設置認可
		4月	開学（前橋市文京町校舎）
	56年	4月	教職課程設置（国文学科・英文学科）
	57年	10月	佐波郡玉村町に校舎移転
	58年	10月	皇太子殿下・同妃殿下行啓
	63年	4月	教職課程設置（美学美術史学科）
平成	2年	4月	美学美術史学科実技棟完成
	5年	6月	ワシントン州立セントラルワシントン大学（米国）と友好交流協定締結
	6年	4月	大学院（文学研究科）設置
	13年	4月	外国語教育研究所設置
		11月	江蘇省立蘇州大学（中国）と友好交流協定締結
	14年	3月	評議会設置
		7月	県内6大学（群馬大学、群馬県立女子大学、関東学園大学、上武大学、東洋大学、放送大学）による単位互換に関する包括協定書締結
	15年	1月	高崎経済大学・前橋工科大学との教育・研究連携協議会発足
		4月	群馬県公立3大学の大学院間単位互換制度の実施
	16年	4月	群馬県公立3大学の学部間単位互換制度の実施
	17年	4月	国際コミュニケーション学部設置
	18年	6月	ハワイ大学ヒロ校（米国）と友好交流協定締結
		6月	ヒューロン大学（カナダ）と友好交流協定締結
		10月	高麗大学校（韓国）と友好交流協定締結
	19年	1月	新館（2号館）完成
	20年	11月	大連外国語学院（中国）と友好交流協定締結
	21年	4月	文学部に総合教養学科を設置
		4月	大学院に国際コミュニケーション研究科を設置
		4月	群馬学センター設置
		10月	オクラホマ州立大学（米国）と友好交流協定締結
	22年	4月	文学部英文学科を英米文化学科に改編
	23年	1月	玉村町と連携協力に関する包括協定締結
		4月	文学研究科英文学専攻を英米文化専攻に改編
	24年	4月	地域日本語教育センター設置
	25年	4月	文学研究科複合文化専攻を設置
		4月	ウィンストン-セーラム州立大学（米国）と友好交流協定締結
	26年	4月	キャリア支援センター設置
	27年	7月	国立高雄第一科学大学（台湾）と友好交流協定締結
	28年	9月	デ・ラサール大学（フィリピン）と友好交流協定締結
		12月	群馬県立歴史博物館と包括的連携協定締結
	29年	12月	マラヤ大学（マレーシア）と友好交流協定締結
	30年	4月	本学の設置者を群馬県から群馬県公立大学法人に変更
令和	3年	10月	群馬経済同友会と連携・協力協定締結
		4年	群馬県教育委員会と包括連携協定締結
		5年	文学部総合教養学科を母体として、文化情報学科を設置
		6年	国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション課程、国際ビジネス課程を母体として、グローバル・コミュニケーション課程、グローバル社会システム課程を設置
		4月	群馬県立近代美術館と包括的連携協定締結

3 大学組織構成

(令和8年4月1日現在)



※国際コミュニケーション学部は、学部で一括(転入学・編入学を除く)して学生を募集する。

4 学生・教職員数(令和8年4月1日現在)

(1) 在学生の状況

① 学部生

(単位:人)

区 分 学部・学科	県 内 者		県 外 者		計
		%		%	
国 文 学 科	128	54.2	108	45.8	236
英米文化学科	82	44.1	104	55.9	186
美学美術史学科	65	46.1	76	53.9	141
文化情報学科	80	57.6	59	42.4	139
(総合教養学科)	1	50.0	1	50.0	2
文 学 部 計	356	50.6	348	49.4	704
国際コミュニケーション学部	134	48.6	142	51.4	276
総 計	490	50.0	490	50.0	980

② 院生

(単位:人)

区 分 学 科	県 内 者		県 外 者		計
		%		%	
日本文学専攻	8 (0)	0.0	4 (0)	0.0	12 (0)
英米文化専攻	5 (0)	83.3	1 (0)	16.7	6 (0)
芸術学専攻	7 (0)	77.8	2 (0)	22.2	9 (0)
複合文化専攻	0 (0)	0.0	0 (0)	0.0	0 (0)
国際コミュニケーション専攻	0 (0)	0.0	0 (0)	0.0	0 (0)
計	20 (0)	74.1	7 (0)	25.9	27 (0)

※カッコ内の人数は男子大学院生で内数

(2) 教職員の状況

① 全体

(単位:人)

	専任・常勤	非常勤	計
教員(学長を含む)	57	76※	133
事務職員	28	24	52
計	85	100	185

※通年及び前期の雇用人数(年度の雇用予定人数は127人)

② 教員(専任教員・非常勤講師)

(単位:人)

学科	職名		専 任 教 員										非常勤 講 師	計	
			学長		教授		准教授		講師		助手				小計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			計
学 長	1										1	0	1		
国 文 学 科			4	2	2	2		1			6	5	11		
英米文化学科			5	1	3	1		1			8	3	11		
美学美術史学科			3	1	1	1	2				6	2	8		
文化情報学科			2	1	3	1		1			5	3	8		
国際コミュニケーション学部			4	4	3	2	1	1			8	7	15		
群馬学センター			1								1	0	1		
地域日本語教育センター						1					0	1	1		
キャリア支援センター								1			0	1	1		
計	1	0	19	9	12	8	3	5			35	22			
	1		28		20		8		0		57			76	133

※大学院専任教員は42名で学部専任教員が兼務

③ 事務職員

(単位:人)

	事務局長		次 長		総務企画係		会計図書係		教務係		入試広報係		学生係		連携推進係		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
職員数	1			1	3	1	1	4	3	2	1	3		4	1	3	10	18
	1		1		4		5		5		4		4		4		28	

④ 事務職員(非常勤嘱託)

(単位:人)

	研究員	事務補助	教務補助	留学支援・研究所	保健師	管理員	学校医	カウンセラー	キャリア・アドバイザー	計
職員数	6	2	7	1	1	3	2	1	1	24

5 令和8年度入学者の状況(令和8年4月1日現在)

(1) 学部・学科別入学者の状況

(単位:人)

学部・学科	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	うち県内	県内比率	転入学・編入学	
								入学定員	入学者
国文学科	50	254	194	69	61	33	54.1%	若干名	0
英米文化学科	40	130	83	59	46	22	47.8%	若干名	0
美学美術史学科	30	142	97	39	37	15	40.5%	若干名	0
文化情報学科	30	119	93	39	33	19	57.6%	若干名	1
文学部 計	150	645	467	206	177	89	50.3%	若干名	1
国際コミュニケーション学部	60	257	173	76	68	31	45.6%	若干名	1
合計	210	902	640	282	245	120	49.0%	若干名	2

※ 県内、県外の区分けは出身高校所在地を基準としている。

※ 志願倍率:志願者／募集人員=4.3倍

実質倍率:受験者／合格者=2.3倍

(2) 都道府県別入学者の状況

(単位:人)

北海道	4	埼 玉	14	岐 阜	2	鳥 取	1	佐 賀	0
青 森	3	千 葉	0	静 岡	5	島 根	0	長 崎	0
岩 手	2	東 京	2	愛 知	1	岡 山	0	熊 本	0
宮 城	1	神奈川	0	三 重	0	広 島	0	大 分	0
秋 田	1	新 潟	13	滋 賀	0	山 口	0	宮 崎	0
山 形	6	富 山	5	京 都	1	徳 島	0	鹿児島	0
福 島	6	石 川	2	大 阪	1	香 川	0	沖 縄	0
茨 城	22	福 井	0	兵 庫	1	愛 媛	1	高卒認定	0
栃 木	23	山 梨	1	奈 良	0	高 知	0	海 外	0
群 馬	120	長 野	6	和歌山	0	福 岡	0	計	244

(3) 大学院研究科・専攻別入学者の状況

(単位:人)

研究科・専攻	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	うち男性	うち本学出身
日本文学専攻	5	4	4	4	4	0	3
英米文化専攻	5	6	6	5	4	0	4
芸術学専攻	5	6	5	4	4	0	4
複合文化専攻	2	2	0	0	0	0	0
文学研究科 計	17	18	15	13	12	0	11
国際コミュニケーション研究科	3	1	1	0	0	0	0
合 計	20	19	16	13	12	0	11

(4) 聴講生・研究生の状況

(単位:人)

	文学部	国際コミュニケーション学部	大学院	計	備 考
聴 講 生	4	0	1	5	前期
特別聴講学生	4	0	1	5	前期
研 究 生	0	0	0	0	前期
科目等履修生	1	0	2	3	前期
計	9	0	4	13	-

※ 人数は延べ数を記載している。

6 令和7年度卒業生の進路状況(令和8年3月31日現在)

(1) 学部・学科別の進路状況 (単位:人)

学部等	卒業生	就職希望者	就職者				就職率 %	就職希望なし	
			民間	公務員	教員	計		進学	その他
文学部	155	138	111	9	16	136	98.6	9	7
国文学科	58	53	40	2	11	53	100.0	2	3
英米文化	41	38	31	2	3	36	94.7	3	0
美学美術史学科	34	27	22	3	2	27	100.0	4	2
総合教養学科	22	20	18	2	0	20	100.0	0	2
国際コミュニケーション学部	59	54	49	5	0	54	100.0	1	4
英語コミュニケーション課程	32	27	25	2	0	27	100.0	1	4
国際ビジネス課程	27	27	24	3	0	27	100.0	0	0
大学全体	214	192	160	14	16	190	99.0	10	11

※ 卒業者には9月卒業生を含む。

※ その他には、教員・公務員再受験等を含む。

(2) 学部・学科別の就職者(民間)の業種別状況 (単位:人)

	建設	製造	情報通信	運輸	卸売小売	金融保険	不動産	サービス	医療福祉	電気・ガス	教育	計
国 文	3	10	7	2	3	1	1	9	3	0	1	40
英 米 文	1	3	5	2	0	2	2	13	2	0	1	31
美学美術史	0	5	2	1	3	0	0	10	0	1	0	22
総合教養	1	2	3	0	3	1	1	5	2	0	0	18
英語コミ	2	2	3	2	7	2	0	5	1	0	1	25
国際ビジ	0	4	4	0	4	2	1	7	1	0	1	24
計	7	26	24	7	20	8	5	49	9	1	4	160

(3) 大学院研究科・専攻別の進路状況 (単位:人)

研究科 専 攻	修了者	就職希望者	就職者	進学者	その他
文学研究科	4	4	4	0	0
日本文学専攻	0	0	0	0	0
英米文学専攻	2	2	2	0	0
芸術学専攻	2	2	2	0	0
複合文化専攻	0	0	0	0	0
国際コミュニケーション研究科	1	1	1	0	0
大学全体	5	5	5	0	0

7 日本学生支援機構奨学金の給付・貸与状況(令和8年3月31日現在)

(単位:人)

	給付	第一種 (無利子)	第二種 (有利子)	計
学部学生	265	202	179	646
大学院生		8	1	9
計	265	210	180	655

※ 延べ人数

8 外国語教育研究所の状況

(1) グローバル人材育成「明石塾」

国際的な視野と国際舞台で堂々と発言し行動できる力を備え、高い志と行動力に富んだ人材を育成。

入塾式 7月26日(土)実施

英語研修・大学講義、県内外フィールドワーク、東南アジア方面海外研修他 26日間(週末等に実施)

(2) 高等学校連携英語授業

・モデル授業実施: 研究所作成の授業プランに従ってコミュニケーション能力育成モデル授業を実施

高崎経済大学附属高等学校 6月10日(火)/7月8日(火)/9月2日(火)

高崎商業高等学校 7月15日(火)/9月16日(火)

沼田高等学校 令和8年3月5日(木)/3月6日(金)/3月23日(月)

・個別授業支援: 各学校の個別の授業プランに従って授業を実施

洪川高等学校 12月16日(火)

中央中等教育学校 令和8年2月17日(火)

高崎女子高等学校 令和8年1月20日(火)

(3) 明石杯高校生英語コンテスト

① 期日・場所 11月14日(金) 県立女子大学

② 参加状況

	本大会				支部予選 (本大会出場者を除く)
	1年	2年	3年	計	
レシテーション	9	8		17	30
スピーチ第1部	10	12	3	25	27
スピーチ第2部(海外滞在経験者等)	9	7	1	17	
プレゼンテーションの部	7	9	2	18	
計	35	36	6	77	
参加総数					134

(4) 英語特別セミナー English Communication Workshop

身近な社会問題や環境問題に関する大学教員の講義を聞き、その知識に基づき英語でグループディスカッションを行い、そこでの学びや気づきを英語で発表する2日間のプログラム

① 期日 令和8年2月19日(木)/3月3日(火)

② 参加校 12校(83名)

(5) 企業英語研修

サンデン株式会社 4月7日(火) 新入社員研修 *対象者18名

【内容】ビジネスシーンを想定した基礎的な英語に親しむとともに、継続した英語学習への動機付けをする。

(6)海外留学の状況

① 参加者の累計

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	30年度	29年度	28～15年度	累計
長期留学者数	16	13	14	8	3	3	21	43	31	278	430
短期留学者数	36	50	37	25	6	4	53	61	37	1,196	1,505
計	52	63	51	33	9	7	74	104	68	1474	1,935

② 長期留学

ア 留学先別参加人数

16 名

国・地域	大学・研修機関名	留学先数	人数
カナダ	トンプソン・リバーズ大学(8) セルカーク大学(1) セントジョージインターナショナルカレッジ(1)	3	10
マレーシア	マラヤ大学(交換留学)	1	1
フィリピン	デ・ラ・サール大学(交換留学)	1	1
韓国	高麗大学校(交換留学)	1	2
アイルランド	ダブリンシティ大学	1	1
オーストラリア	ウェスタンシドニー大学	1	1
計		8	16

イ 所属・学年別参加人数

学科	1年	2年	3年	4年	学部計	大学院	合計
国文							0
英米文化		1	1	1	3		3
美学美術史							0
文化情報(1,2,3年) 総合教養(4年)							0
国際コミュ		7	5	1	13		13
合計	0	8	6	2	16	0	16

③ 短期留学

ア 留学先別参加人数

・語学研修

36名

国	大学・研修機関名	研修先数	人数
カナダ	ハートランド・インターナショナル・イングリッシュ スクール(10) University of British Columbia (A SPIRE INTENSIVE)(1) グローバルビレッジイングリッシュセンター(1)	3	12
オーストラリア	グリフィス大学(3) Future English語学学校(1)	2	4
ニュージーランド	ワイカト大学(3)	1	3
アメリカ合衆国	インディアナ大学インディアナポリス校(4)	1	4
計		7	23

・インターン研修

8 名

国	研修内容	研修先	人数
フィリピン	タランバンの公立小学校(副担任)(2)	1	2
ベトナム	ホーチミンの日本語語学学校(日本語教師アシスタント)(1)	1	1
オーストラリア	企業インターン(5)	1	5
計		3	8

・ボランティア研修

5 名

国	研修内容	研修先	人数
アメリカ合衆国	サンフランシスコのフードバンク・教会(低所得者支援)	1	1
インドネシア	バリ島ウブドの小中学校(英語授業支援)(1)	1	1
ブルガリア	アゴラソフィア(日本語授業支援)(3)	3	3
計		5	5

イ 所属・学年別参加人数

学科	1年	2年	3年	4年	学部計	大学院	合計
国文		1			1		1
英米文化		11		1	12		12
美学美術史							
文化情報(1,2,3年) 総合教養(4年)							
国際コミュ	2	18	2	1	23		23
合計	2	30	2	2	36	0	36

④ 交換留学生の受入(R8.4.1現在)

	大学・研修機関名(国名・地域名)	人数
受入	蘇州大学(中国)(2)、国立高雄科技大学(台湾)(2)	4

9 地域貢献活動

(1) 群馬学センター

① 群馬学連続シンポジウム(令和7年度実績)

日時	内 容	参加者数
令和7年7月12日(土) 大学講堂 13:00～16:00	第47回テーマ 学校様の時代ー村や町の近世・近代ー(シリーズ・地域史の画期を問直すⅢ) ☐ 趣旨説明 群馬県立女子大学 群馬学センター 教授 築瀬大輔 ☐ 講演1 「地域のなかで郷学を考える」 国立歴史民俗博物館 准教授 工藤 航平 ☐ 講演2 「嚮義堂と伊勢崎郷学の展開」 群馬県立文書館 主任 小嶋 圭 ☐ 講演3 「足利学校の文化財としての再生と日本遺産への認定」 史跡足利学校 研究員・学芸員 大澤 伸啓 ☐ パネルディスカッション 「地域教育と教育文化財から見た近世・近代移行期の画期」 パネリスト 工藤 航平 小嶋 圭 大澤 伸啓 コーディネーター 築瀬 大輔	142名
令和7年12月20日(土) 大学講堂 13:00～16:00	第48回テーマ 災害史を”する”人々ー異文化交流と市民参加ー(シリーズ・群馬の災害文化Ⅲ) ☐ 趣旨説明 群馬県立女子大学 群馬学センター 教授 築瀬大輔 ☐ 講演1 「歴史災害の記憶の継承を考える」 中央大学文学部 教授 西川 広平 ☐ 講演2 「みんなで翻刻:オンライン市民参加による災害史料翻刻」 国立歴史民俗博物館 准教授 橋本 雄太 ☐ 講演3 「浅間山北麓ジオパークにおける市民参加の災害史実践」 浅間山北麓ジオパーク 専門員 古川 広樹 ☐ パネルディスカッション 「異分野交流と市民参加で”する”災害文化のこれから」 パネリスト 西川 広平 橋本 雄太 古川 広樹 コーディネーター 築瀬 大輔	91名

② 群馬学連続セミナー「史料で読み解く群馬」(令和7年度実績)

日時	内 容	参加者数
令和7年8月8日(金)～ 9月26日(金) 全8回	第7期群馬学連続セミナー 『太平記』を旅するー第三幕・楠木正成の登場ー	延べ534名
令和8年2月13日(金) ～3月17日(火) 全6回	第8期群馬学連続セミナー 『太平記』を旅するー第四幕・後醍醐天皇の流罪ー	延べ376名

③ ぐんま資料保全セミナー(令和7年度実績)

日時	内 容	参加者数
令和7年10月8日(水) 13:30～15:30	☐ 講義 「水損資料レスキューの準備と方法」 長野市立博物館 原田 和彦 ☐ 実習 「水損資料の応急処置のしかた」	20名

④書籍の刊行

タイトル	内 容	発行日
地域学ブックレット 群馬の歴史と文化遺産 Vol.15, Vol.16	群馬学連続シンポジウムの講演録 Vol.15(第45回群馬学連続シンポジウム 上野介源頼信とその時代ー「亡弊史観」を見直すー(シリーズ・地域史の画期を問 い直すⅡ)) Vol.16(第46回群馬学連続シンポジウム 関東平野の文化的景観と防災文化財(シリーズ・群馬の災害文化Ⅱ))	令和8年3月17日
群馬学研究・KURUMA 第4号	地域文化としての「群馬」の持続的発展と、我が国の地域学の確立・発展に寄与することを目的として、群馬学、または地域 学に関連する未公表の論文、資料・事例紹介、書評を掲載	令和8年3月17日

(2) 地域日本語教育センター

講演会・研修会(令和7年度実績)

日時	内 容	参加者数
令和7年12月13日(土) 大学 第1講義室 14:00～16:00	令和7年度地域日本語教育講演会 地域社会とともにある日本語教育のかたちー教室と地域をつなぐ方言のカー 講師: 榎引 祐希子(大阪教育大学 准教授)	71名
令和7年9月18日(木) 13:30～15:30	第1回日本語ボランティアスキルアップ研修 学習効率を上げる指導の工夫ー記憶の仕組みー 講師: 野口 芙美(群馬県立女子大学 地域日本語教育センター 准教授)	46名
令和7年9月25日(木) 13:30～15:30	第2回日本語ボランティアスキルアップ研修 学習の満足と継続のためにできることー動機づけ・ビリーフ第二言語不安ー 講師: 野口 芙美(群馬県立女子大学 地域日本語教育センター 准教授)	46名

(3) 県民公開授業等

①県民公開授業参加者総計(令和7年度実績)

科 目	参加者数
芸術の現場から 月曜4限(教養共通科目)	205名
グローバル・シテズンシップ～大使リレー講座～ 火曜4限(教養共通科目)	
リーダーから学ぶ企業経営 火曜5限(キャリア支援センター開講科目)	
多様な生き方・働き方: 将来のリーダー像を見つけよう 木曜4限(キャリア支援センター開講科目)	

②公開講座参加者総数(令和7年度実績)

日時	内 容	参加者数
令和7年9月1日(月)	『おらが春』を読む 作家がとらえた現代の人間と社会	延べ954名
令和7年9月4日(木)	スードに惑う明治美術 身近なデザイン・アートに親しむ方法	
令和7年9月6日(土)	アーネスト・ヘミングウェイの短編作品を「読む」 数学を通じて自由に考えてみよう!	
令和7年9月8日(月)	身近なところからはじめる異文化コミュニケーション 異文化コミュニケーション入門	
令和7年9月11日(木)	日本人はNoと言わないのか メディア論の系譜	
令和7年9月12日(金)	英語の会話の仕組みを探る: 語用論と認知言語学の言語理論をもとに 英語の発音を学びましょう	

③出前講座・模擬授業

年度 区分	令和6年度	令和7年度	備考
出前講座(市町村公民館等)	42講座	19講座	
模擬授業(高等学校等)	26授業	22授業	
計	69講座(授業)	41講座(授業)	

10 附属図書館の状況(令和8年3月31日現在)

(1) 蔵書数

(単位:冊)

	和 書	洋 書	視聴覚資料	製本雑誌	計
蔵 書 数	113,485	41,102	536	12,330	167,453

(2) 利用状況(令和7年度実績)

(単位:人)

		学生(院生・聴講生 等 含む)	1日平均	教職員	県民	その他	合 計	1日平均
		15,660	67.2	793	186		16,639	71.4
館内 利用 者	入館者数						26,668	114.5
	閲覧者数						400	1.7
	レファレンス件数						3	0.01
貸出 冊数	視聴覚室利用件数							
	利用者数	5,723	24.6	372	101	55	6,251	26.8
	貸出冊数	11,976	51.4	815	282	70	13,143	56.4

11 施設の状況(令和8年3月31日現在)

(1) 敷地

(単位:m²)

用 途 別	面 積	備 考
校 舎 敷 地	39,594	
運 動 場	16,007	300mトラック テニスコート4面など
駐 車 場	8,230	駐車場(収容346台) 駐輪場(収容342台)など
計	63,831	

(2) 建物

(単位:m²)

用 途 別	面 積	備 考
管 理 棟	1,458	学長室、事務室、会議室、保健室、守衛室など
1 号 館	7,769	研究室、教室、多目的教室、視聴覚室、博物館実習室、閉架書庫、地域日本語教育センターなど
体 育 館	2,379	フロア(バドミントンコート 6面 ハレーボールコート 2面)、更衣室
講 堂	2,127	座席940席、身障者用10席など
図 書 館	1,195	収蔵能力約16万冊(閉架書庫含む)、閲覧席74席
実 技 棟	1,769	染織室、デザイン実習室、陶芸室、彫塑室、版画室など
大 学 会 館	1,532	食堂、購買、茶室、オーディオルームなど
2 号 館	5,331	研究室、教室、CALL教室(4室)、外国語教育研究所、群馬学センター、キャリア支援センターなど
そ の 他	1,680	クラブ棟(31部室)、機械棟、回廊、車庫など
計	25,240	

群馬県立女子大学

群馬県佐波郡玉村町上之手 1395-1

〒370-1193 TEL (0270)65-8511 (代表)

FAX (0270)65-9538

E-mail kenjo@mail.gpwu.ac.jp

<https://www.gpwu.ac.jp/>